

2026 年 8 月 31 日

Tazaki 財団英国留学支援奨学金
留学報告書

所属	東京大学教養学部
学年（留学開始時）	学部 2
参加プログラム	全学サマープログラム
派遣先	ウォーリック大学

この度 Tazaki 財団奨学金のご支援をいただき、イギリスのウォーリック大学へ 1 ヶ月間の留学をさせていただきました。このご支援がなければ経験できなかったことばかりで、Tazaki 財団の皆様へ、心より感謝申し上げます。

元々海外に留学をしたいという思いがあり、特に高校の頃からイギリスの文化に興味を持っていたため、今回思い切って挑戦することに決めました。実際に現地に行ってみると、授業内だけでなく、人と話したり、街を歩いたり、さまざまな場所を訪れる一つ一つの経験が全て新鮮で、毎日たくさんの発見がありました。

もちろん、最初から全てが順調であったわけではなく、お店の方やバスの運転手さんの英語がうまく聞き取れなかったり、言いたいことがうまく言葉にならなかったりと、苦労する場面も多くありました。しかし、なんとか理解しようとしてくださったり、別の伝え方をしてくださったりと、現地の方々はとても優しく、何度も助けていただきました。厳しくされるのではないかという漠然とした不安に反して、間違えても、とにかく口を動かして自分から話してみようと前向きになれたと感じています。

そして、特に印象に残っているのは、プログラムの最終日に行ったグループプレゼンテーションです。日本にいた頃の英語の発表では、原稿を丸暗記してしまいがちでした。しかし今回は、伝えたいことを頭の中で整理しながら、自分の言葉で話せている感覚があり、自分でも驚きました。英語を単に勉強するだけでなく、実際に使うことで得られる手応えを感じられたように思います。

また、イギリスの街並みや文化にもとても心を動かされました。歴史のある建物が街の中に馴染んでいて、角を曲がるたびに「わぁ」となるほど景色の一つ一つが素敵でした。大英博物館に無料で入館できたことや、コンサートにも 8 ポンドという手頃な立ち見席が用意されていたことにも驚きました。文化や芸術をより多くの人が楽しめるようにする姿勢が感じられ、印象に残っています。他にも、たまたま話した方が紅茶にとっても詳しくった

り、日本とは一味違った本場のスコーンを味わったり、大学の中でリスやウサギたちに出会ったりと、イメージしていたイギリスらしさに実際に触れられたことも、嬉しい発見でした。変わりやすい天気の中で、何度も虹を見ることができたことも、忘れられない思い出の一つです。

1ヶ月という限られた期間ではありましたが、実際に現地で生活したからこそ得られた気付きがたくさんありました。Tazaki 財団奨学金のご支援があったことで、留学に挑戦する上で経済的な不安を乗り越え、興味のある場所や新しい経験に積極的に挑戦し、この留学を最大限に活かすことができたと感じています。

今回の経験を通して、もっと英語を使えるようになりたいという気持ちが強くなりました。今後は外部試験にも挑戦しつつ、日常生活でも英語に触れる機会を積極的に増やし、またイギリスを訪れる際には今回以上にたくさんの人と深く関わりたいと考えています。この経験を一度きりのものとせず、これからの挑戦に繋げていきたいと考えています。改めて、このような貴重な機会を与えてくださった Tazaki 財団の皆様に、心より感謝申し上げます。

